

MUJINTO

The Alumni Association of Otani University

無 書 燈

2007年3月
No.127



大谷大学同窓会

「よき師と学友に支えられて」

福島光哉先生にインタビュー



— 先生が大谷大学に入学されたいきさつについて、お聞かせください。

私は昭和三十（一九五五）年に京都大学の哲学科を卒業しました。その頃は大変な就職難の時代でして、ましてや、哲学科出身の者には、こゝとに厳しい状況でした。ところが、たまたま大阪の私立高校の教員になることができ、そこで五年ほど勤め

ました。

その期間中に岐阜の大垣の寺に入ることが決まりました。もともと寺の出身でしたが、大谷派ではありません。そこで、大谷派の教師資格が必要だということになり、いろいろ考えたすえに、昭和三十五（一九六〇）年に大谷大学の修士課程に入りました。大谷大学の大学院に入ってからが、私の仏教学の始まりでありました。

— 大学院に入学された頃、どのような先生方がおられましたか。

大学院では、インド仏教は山口益舟橋一哉の両先生、中国仏教は横超慧日先生と安藤俊雄先生が担当されていました。また学部では当時、講座制になっておりましたね、第一講座が原始仏教の舟橋先生、第二講座がインド大乘の山口先生、第三講座が華嚴の山田亮賢先生、そして第四講座が天台の横超先生でした。

あのころ、先生方の個人研究室などはありませんでした。尋源館の一階には教員控室があり、講義にいられた先生方は、そこに帽子やマントを置いて授業にでかけられたもので、同じく尋源館の一階にあった研究室では、冬になると、ストーブもないので大きな鉄火鉢を置いてね、用務員さんから種火を貰ってきて、炭をくべて暖をとっていました。今の大谷大学からは想像もできないような状況でした。

— 大学院でのご研究についてお聞かせください。

私はサンスクリット語を全く知らなかったこともあり、中国仏教を専攻することに決め、安藤俊雄先生のゼミに入りました。

大学院に入学してまず痛感したのは、漢文の読解力不足でした。漢文の仏教文献を読むのが、当時の私にはとても難しかった。しかし幸いなことに、鍵主良敬さんや三桐慈海さん、東福寺の福島慶道さん、別府信空さんなど良い先輩方に恵まれ、一緒に勉強させてもらう中で、だんだんと漢文仏典の読み方にも自信が持てるようになりました。

安藤先生は大谷大学の予科をでられて、九州大学で宗教学を専攻された方です。そういう意味で哲学出身の先生ですね。私が入学したとき、先生は履歴だけをご覧になって、

「君は哲学をやってきた人間だから天台学を専攻しなさい。このごろ、天台をやつてる学者のなかには、哲学の分からない人が多い。君は哲学の側面から天台を学んでいくのがよろしかろう」と言われたんですね。そのことを聞いて、ともかく天台学を専攻することになりました。

安藤先生は当時、下総町に下宿しておられました。大学院に入学して二、三ヶ月ほど経った頃でしょうか、先生の下宿をお伺いしたとき、先生からさつそく修士論文のことを言われました。「天台をやるなら、やっぱり円融三諦だ。空・仮・中の三諦の論理をひとつ、哲学的なテーマとしてやってみなさい」と。そのとき、修士論文のテーマが、天台智顛の円融三諦の研究ということに決まりました。

智顛の『法華玄義』を中心に、その当時の二諦とか三諦とか、南北朝時代の仏教学説を調べながら、修士論文をまとめました。修士論文を書くためにあのころ読んだ本や勉強したこと、後々まで頭の中に残っており、私の研究の基礎になったと思っています。

— ご専門の学問について、お聞かせください。

天台学は、いわば理論部門と実践

部門の二本立ての学問ですね。私は修士課程で『法華玄義』を中心に理論教学をやりましたから、次のドクターコース（博士課程）では、実践教学である止観を中心に学ぶことにしました。仏教の実践体系を説く『摩訶止観』は取っ付きにくいテキストですが、少しずつ幅を広げながら、止観を基調とした天台思想に取り組むようになりました。

私は真宗の坊主ですから、親鸞聖人の教えに関心がないわけではないのですが、天台学などをやり始めたから、どんだんのめり込んでいくわけです。簡単には抜けられません。だんだんと親鸞聖人から遠ざかってしまいました。浄土教に学問的に関心を持つようになったのは、だいぶ経ってからです。

安藤先生が学長の任期中にお亡くなりになり、横超先生もお辞めになつて、大学院担当の中国仏教の先生がおられなくなりました。そこで、私も中国仏教の講義を受け持つことになりましたね、そのころから、知礼の『観無量寿経疏妙宗鈔』という書物を中心に、趙宋天台の浄土教の研究をすすめるようになりました。定年まで、ほぼそういうことばかりやっていましたね。

先生の現在の「ご関心についてお聞かせください。」

ある時、安藤先生が、「親鸞は天台智顛が課題としていたものを、コペルニクスの転回をもって答えた」と言われたことがあります。つまり、天台智顛が課題としていたことを、親鸞聖人は全く逆の立場に立って答えた、とおっしゃったのですね。

天台宗や日蓮宗などの法華仏教と、私たちの浄土教との接点といえますか、共通する場をどこに見い出せるのか。このことを徹底的に確かめることが大切だと思うのです。法華仏教と浄土教の関わりを少しでも明らかにしていきたい、ということが今の私の関心事です。

今後の大谷大学のあり方について、先生のお考えをお聞かせください。

広瀬先生が学長をされていた頃、全国の有名私立大学が加盟している私大連（日本私立大学連盟）の学長会議が、大谷大学で開かれたことがありました。その当時、私立大学の中心に据えるべきものは何かという議論のなかで、「建学の精神」ということが改めてクローズアップされたのです。大谷大学では学園紛争以来、建学の精神をめぐる皆で懸命に考えてきました。そういう大谷大学の独特の有りようが注目されたの

でしようね。つまり、大谷大学は私大連のなかで、規模の小さな大学でありながらも注目され、発言力を持つことができたのです。このことの意味は大きいと思います。

今は大学が併合されたりする、大学にとっては大変厳しい時代です。そのうち、建学の精神など言っておれないというような、深刻な事態に陥ることがあるかもしれませんね。そんな時代に、従来のやり方がそのまま通用するかどうか、私には分かりません。しかし、大谷大学はやっぱり、建学の精神とのつながりで大学のあり方や、進むべき方向を確かめていって欲しいと願っています。

言葉の重み

今でも忘れられません。初めの学会発表のとき、混乱してどうすることもできなかった私に、先生が優しい口調で語ってくださいました。

「君には言いたいことがたくさんあるよ。ただね。しかし、その少しでも客観的な資料に則って論証することが難しいの

大窪康充

ではないですか」

資料を忠実に読み、そして資料に語るというのが先生の一貫した学問姿勢でした。大学を離れた今こそ、無責任な立場から、知らないうちに傲慢になつて何かを語ろうとする私自身に、重く響いてきます。

何事にも、常に拠り所を見据えながら発するお言葉は、教える立場の責任とともに、生きていく上での謙虚さを指し示してくださいました。

また、お会いできる日を楽しみにしております。

福島光哉先生へのコメント



おおくぼ こうじゅう
1992年満期退学
博士後期課程仏教学専攻

〔略歴〕

- 一九三二年 大阪市に生まれる
- 一九五五年 京都大学文学部哲学科 哲学専攻卒業
- 一九六五年 大谷大学大学院博士課程 仏教学専攻単位取得
- 一九六八年 大谷大学専任講師
- 一九七四年 大谷大学助教授
- 一九八〇年 大谷大学教授
- 一九八三年 学監・文学部長
- 一九九八年 大谷大学退職
- 現在 大谷大学名誉教授
- 〔著書〕
- 『妙法蓮華経玄義序説』
- 『宋代天台浄土教の研究』
- 『楽邦文類』の研究
- 『佛説観無量寿経』講究
- 他、論文多数



本部報告



二〇〇六年度前期卒業式並びに同窓会新入会員歓迎祝賀会

昨年九月二十九日(金)、二〇〇六年度前期卒業証書・学位記授与式が講堂において挙行されました。文学部三十二名、短期大学部二名の卒業生に、「卒業証書・学位記」が授与され、木村宣彰学長の告示に続いて、真宗大谷学園熊谷宗惠理事長より祝辞が述べられました。



卒業証書・学位記授与風景

引き続き、多目的ホールにおいて卒業と同窓会への入会を祝って、同窓会主催の「大谷大学卒業・修了並びに同窓会新入会員歓迎祝賀会」が開催され、卒業生、ご父母並びに教

職員が一堂に会し、和やかなひとときを過ごしました。

NPO法人「尋源舎」設立なる

企画推進委員会第二部会

部会長 二階堂行邦

企画推進委員会第二部会では、中・長期的な視野に立って、同窓会活動の活性化を検討してまいりました。そして、「課題と未来像」を次の五つに整理いたしました。

- 一、財政の健全化(新入会員の終身会費への依存財政の健全化)
- 二、学生支援の方途
- 三、企画立案部門の構築
- 四、若い会員の同窓会活動参加促進・組織化・IT化
- 五、同窓会として大学とともに社会に向かっの働きかけ(時代社会から問われている課題に応える)

すでに「学生支援表彰」や「同窓会うどん」、「同窓会うどん専用麺鉢」などの学生支援は実行しておりますが、これらの課題克服のためには、本部機能の強化が急務であるとの結

論に達しました。

また、検討の過程で、次のような具体的なアイデアが生まれました。

- ・同窓会支部活動活性化の支援(巡回講演会の公開)
- ・同窓会/同期会の支援プロデュース
- ・キャラクターグッズの開発/販売
- ・同窓会が運営する市民に広く開放されたカフェの開設
- ・同窓会奨学金制度の設置
- ・同窓会が運営する学寮の創設
- ・学内外の仏教・学術・文化/スポーツイベント(大谷vs龍谷など)の交流運営
- ・下宿生活での家具、家電リサイクル事業 など

そしてこれらの事業を実行するためには、社会的に責任を負える法人格が必要との結論に至り、NPO法人の設立を構想いたしました。

NPO法人とは、「特定非営利活動」法人のことですが、収益事業を行ってはいけない団体ではありません。得た収益は、構成員に分配せず、団体の主たる活動目的を達成するための費用に充てなければならぬ団体法人のことです。

以上の経緯により、昨年五月十九日の同窓会総会で、NPO法人「尋源舎」の設立を提案し、承認されました。その後、早速設立の申請を行

い、十二月十二日付けで京都府より認証されました。

NPO法人「尋源舎」は、同窓会の願いとする「仏教及び人間学に関わる領域」を公開して社会に貢献しようとするものです。したがって、今後わが同窓会は、「尋源舎」と補充しあって、巡回講演会などの支部活動をはじめ、母校支援の一助となる活動を、精力的に推進していく所存です。

同窓の皆様には、趣旨をご理解の上ご賛同いただき、物心にわたるお力添えを賜わりますことをお願いする次第です。

NPO法人 尋源舎 からのお願い

- 活動を支援していただく「ボランティア社員」を募集しています。
- 活動資金としての「寄付金」「賛助金」を募っています。

同窓の皆様には、何卒よろしくご支援のほどお願い申し上げます。ご賛同・ご協力いただける方は、同窓会本部までご一報ください。

連絡先 TEL:075-411-8124 (同窓会本部直通)
尋源舎ホームページ <http://www.zingensya.jp>

第十一回 ホームカミングデー 開催報告

学園祭（紫明祭）期間中の、去る十一月十一日（土）に同窓会主催、恒例の「ホームカミングデー」を開催いたしました。退職された先生や専任教員のご出席のもと、全国より約一五〇名の同窓生やご家族などの参加がありました。

第一部「谷大へ行こう」では、あいにくの雨のため、昨年好評でありました屋上での記念撮影は中止になりましたが、メイン会場である第一会議室において、参加者は久しぶりに再会した恩師や旧友と和やかに懇談されました。また、当日のスタン



全国の同窓会各支部より特産品が！

参加の「ひっばって大当たり」では、参加者の「ひっばって大当たり」の掛け声のもと、色とりどりのテープを一齐にひっばり、みんなの歓声でいっぱいになりました。ひっばったテープにより、参加者に全国の同窓会各支部よりご提供いただいた特産品が贈られました。さらに、バザーを利用した参加者の投票により、貫練学寮がバ

プラリー「谷大 温故知新」では、「北門石柱」「博物館」「尋源館」「二号館の翔」の四箇所を巡り、**鈴・困**・**大・圃**のスタンプを集めました。母校のキャンパスを散策する際には、当日配布された「学園祭バザー利用券」を利用し、バザーに参加しながら在学生との交流も図られました。

第一部後半の「お楽しみ抽選会」では、十一月十一日開催「第十一回ホームカミングデー」にちなみ、スタンプラリー完了者の中から抽選で十一名に豪華な味のお楽しみ袋が景品として贈られました。また、全員

ザー優秀団体として選ばれ、ホームカミングデーと翌日の後夜祭において同窓会より表彰されました。

その後、京都ロイヤルホテル&SPAに会場を移し、第二部「懇親会」が開催され、和やかな雰囲気の中、盛會裡に終了いたしました。

同窓会支部から丸太イスが寄贈される

このたび、同窓会北の国支部・砂川支部から丸太イス（五脚）が寄贈されました。

この丸太イスは、楡の木の株を加工したもので、「構内の一角においていただき、休憩時間にもベンチ代わりとして学生に利用していただければ」との意向によりご惠贈いただいたものです。同窓からの心こもる贈り物。大切に利用したいと思えます。



丸太イスでくつろぐ学生

同窓会学生支援表彰「菩提樹賞」表彰者決定

同窓会学生支援表彰「菩提樹賞」表彰式が、三月十六日（金）、卒業・修了並びに同窓会新入会員歓迎祝賀会において執り行われ、藤島建樹同窓会会長から本年度者二名に対し、表彰状及び記念品が授与されました。
☆本年度「菩提樹賞」表彰者

・後藤靖英（文学部真宗学科）
学術分野：第二十二回梶鳥敏賞第一部門（哲学・思想に関する論文）に「更生の仏道」を投稿、同賞を受賞。（参照9頁）

・INAMI（金 偉）
（大学院修士課程仏教文化専攻）
学術分野：中国語訳『今昔物語集』（二〇〇六年三月中国万巻出版公司刊。五千部発行）全三冊、一五七二頁の出版。再版決定。

常務理事・支部長・事務局交代のご紹介 ありがとうございます よろしくおねがいいたします

〈常務理事〉 武井 弥弘
（前常務理事 安田 龍誓）
〈室蘭支部長〉 飯尾 哲也
（前支部長 狐野 利久）
〈福井支部長〉 原 直樹
（前支部長 吉岡 康裕）
〈千葉支部事務局〉 杉浦 典行
（前事務局 杉浦 典行）

**本学元教授が地域文化功労者と
して文部科学大臣表彰を受賞**

昨年十一月十三日(月)、本学卒業生で、短期大学教授として教鞭を執っておられました高橋正隆先生(一九五三年学部卒)が、「平成十八年度地域文化功労者文部科学大臣表彰」を受賞されました。地域文化功労者表彰は、多年にわたり文化財の保護に尽力する等、地域文化の振興に功績のあった個人および団体に對して、その功績を称え文部科学大臣が表彰するものです。

和紙文化研究の第一人者である高橋先生は、滋賀県下の古い經典をはじめとする文化財調査に主任調査員として携わるとともに、滋賀県文化財審議委員会委員を十五年にわたり務められており、それらの功績が認められ今回の表彰となりました。

今回の表彰について高橋先生は「大谷大学の史学の教授陣には、橋



高橋正隆さん

川正、徳重浅吉、三品彰英、藤島達朗など、歴代のすばらしい先生がおられました。この先生方の伝統や薫陶を受けて実践してきたことです」と述べられています。

なお、高橋先生は二〇〇五年十一月に第三十回滋賀県文化賞も受賞されています。

**同窓会海外研修 第十一弾
「ベトナム・宗教と世界遺産
を巡る研修の旅」実施報告**

本年一月十四日(日)～二十一日(日)の八日間にわたり、同窓会海外研修第十一弾「ベトナム・宗教と世界遺産を巡る研修の旅」を実施いたしました。今回は、本会会長藤島建樹名誉教授を団長として、同窓会員ならびに有縁の方々二十四名の参加がありました。ハノイからホーチミンへベトナムを縦断しながら、各種宗教寺院やハロン湾、古都フエ、ミーソン遺跡、ホイアン市内の世界遺産を訪れました。

参加者は、雄大な遺跡等を目のあたりにして、感激されていました。

**二〇〇七年度同窓会総会の
ご案内**

開催日 二〇〇七年五月十七日(木)
時間 午後一時三〇分

(総会終了後、懇親会)

大谷大学同窓会海外研修 第12弾

中国・浄土教のふるさとを訪ねて

このたび曇鸞大師・道綽禪師・善導大師ゆかりの、中国山西省玄中寺を訪ねる、浄土教のふるさとを歩く研修旅行を企画いたしました。また、同時に玄奘三蔵・鳩摩羅什ゆかりの寺院や、中国三大石窟の一つ「雲崗石窟」、中国最古最高の木塔「応県の木塔」、絶壁に張り付くように建てられた「懸空寺」なども訪れます。

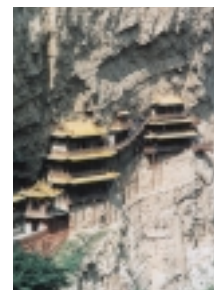
有縁の方々をお誘いのうえ、多数で参加ください。



雲崗石窟



応県の木塔



懸空寺

日次	スケジュール
1	関空から中国国際航空で空路北京、八達嶺(万里の長城)を見学し大同へ (大同泊)
2	中国三大石窟の一つ、雲崗石窟・華嚴寺見学 (大同泊)
3	大同より五台山へ、途中応県の木塔・懸空寺を見学、雁門関(曇鸞の出身地)を通ります。 (五台山泊)
4	五台山見学:台懷廟寺群(羅巖寺・顯通寺・塔院寺・菩薩頂など) (五台山泊)
5	五台山から太原へ:途中、銀閣寺・竹林寺、台外の寺院(尊勝寺・仏光寺)見学、太原市内双塔寺・郊外晋祠見学 (太原泊)
6	太原郊外の曇鸞大師・道綽禪師・善導大師ゆかりの玄中寺を見学後、世界遺産に指定された明・清時代の街並みが残る平遥古城見学、夜行列車(軟座寝台)で西安へ(車中泊)
7	市内観光:碑林博物館(善導大師に関する碑文を中心に見学)・兵馬俑坑博物館・玄奘三蔵ゆかりの大雁塔・義浄ゆかりの小雁塔を見学 (西安泊)
8	西安郊外観光:鳩摩羅什ゆかりの草堂寺・善導大師の舍利塔のある香積寺・神和原から終南山展望 (北京泊)
9	世界遺産周口店北京原人遺跡・房山雲居寺(中国仏教史上貴重な石経見学)北京から中国国際航空で空路関空へ (帰国)

- ◆引率団長 藤島建樹同窓会会長
- ◆旅行期間 2007年9月1日(土)～9月9日(日)
- ◆募集人員 30名(最小催行人員20名)
- ◆旅行費用 248,000円(この金額の他に、諸経費が別途かかります)
- ◆申込締切 2007年7月2日(月)
- ◆参加資格 同窓会員とその家族等
- ◆申込方法 旅行会社へパンフレットをご請求のうえ、お申込ください。
- ◆お問合せ先・取扱旅行代理店
 (株)モントラベル(担当 四ツ井/渡辺)
 〒550-0013 大阪市西区新町1-8-1 諏訪ビル
 TEL 06-6531-1344
 FAX 06-6531-1346
 E-mail: info@monto.co.jp

ベトナム・宗教と世界遺産を巡る研修の旅に参加して

朝日 英明

(一九六一年文学部・真宗学科卒業)

ベトナムの宗教事情を知りたく、同窓会が企画した研修の旅に参加した。参加者二十七名で関空より出発、ハノイ着陸、時差二時間、気温十九度。翌日、世界遺産ハロン湾を眺望。ベトナムの人口は、八千三百万人、何処の街も間口二間半程、雑貨店等の店が軒を連ね、人もバイクも溢れ活気に満ちている。ベトナムは、寺院が一万五千三百二十六ヶ寺、北部はハノイにある北伝仏教浄土の蓮派

寺を訪れた。黄色の門を入ると、橙色の屋根瓦、民家風の平屋の本堂、外観は質素だが、堂内は奥行きもあり、なんとなく中国風である。奥の壇には中央に釈迦仏、右に阿彌陀仏、左に弥勒菩薩が安置され、日本の佛像によく似ている。前壇には諸像が安置され、僧侶が導師となり大勢の信者が勤行をしていた。本堂中央の上には朱塗りの額があり、金の文字で、阿彌陀佛の漢字が印象的、後方では、信者が盆に供え物を飾り付けていた。境内の一隅の炉で、供養のために印刷の札など燃やしていた。安居には大勢の僧、尼僧が学習に集まると聞く。まさに仏教が息づいている。(鎮国寺・バードー寺・歴史博物館) 中部はフエの勅賜報国寺の山門が聳え立ち、境内は雨で滑りやすい、十七世紀の創建で、臨済、北伝仏教でこもも禅浄一致の寺である。



フエ「勅賜報国寺の山門」

僧として残るのは一人二人である。修行僧は街に行き鉢を持って托鉢する。伽藍は派手でタイの寺院を思わせる。SAL(僧侶の集会所)があり、向かいが広場で、五く六名の僧が初を天日干しにして袋詰にしていた。本堂も壁一面に釈迦の伝記が描かれている。(メコン川デルタの水上市マーカー・ホーチミン最古の覚林寺)ベトナム戦争で、枯れ葉剤による凄惨な戦争の傷痕を証明する戦争証跡博物館を最後に全日程を終了。团长藤島先生、大西先生、同行の皆様にお礼と感謝を申し上げます。

合掌



ハノイ近郊「ハロン湾」(世界遺産)にて

物に飾り付けていた。境内の一隅の炉で、供養のために印刷の札など燃やしていた。安居には大勢の僧、尼僧が学習に集まると聞く。まさに仏教が息づいている。(鎮国寺・バードー寺・歴史博物館) 中部はフエの勅賜報国寺の山門が聳え立ち、境内は雨で滑りやすい、十七世紀の創建で、臨済、北伝仏教でこもも禅浄一致の寺である。

フエには寺院が百ヶ寺ある。ここは仏教中学校で、僧、尼僧が教室で学習していた。若き僧は全部頭を剃らずに、少し髪を残し、一人前の僧になつたら全部剃る。堂内に『無盡燈』の掲額、寺院内の共通の挨拶の言葉はアジダバー(ナモアマミダバー)でとても親しみを感じた。「カイディン帝廟・チャム彫刻博物館・福建省会館・ホイアンやミーソン遺跡の世界遺産」南部、ソクチャンのマハテウク寺院(俗称コウモリ寺)は南伝仏教で今の建物は十七代目住職が建て、現住職は十九代目である。本尊は釈迦一仏。現在は二十数名の僧がいる。クメル人は、昔は十六く十七才になると、三年間仏門に入り修行した。でなければ結婚ができなかつた。今は出入りが自由で千人来ても、



チャンパ王朝の聖地「ミーソン遺跡」(世界遺産)にて
[前列右端が筆者]

母校の動き (2006年9月～2007年3月)

2006年

9/12(火)～30(土)

大谷大学博物館2006年度秋季企画展
【仏教の歴史とアジアの文化Ⅵ】

9/28(木) 【宗祖御命日勤行・講話】

「鈴木大拙先生と真宗」 築山修道 本学教授

9/29(金) 【前期卒業証書・学位授与式】

【前期卒業・修了並びに同窓会新入会員歓迎祝賀会】

9/30(土) 【教育後援会全国父母兄弟懇談会】

10/ 6(金) 大谷大学真宗総合研究所開設25周年記念

「南都仏教の中世的展開」

10/10(火) 大谷大学博物館2006年度特別展

【鈴木大拙没後40年記念展 大拙 その人と学問】[～11/28]

10/13(金) 【開学記念式典並びに初代学長清沢満之謝徳法要】

「『間』の妙—鈴木大拙と曾我量深—」

上田閑照 京都大学名誉教授

10/14(土) 【自己推薦入試〔文学部仏教学科〕】

【大谷大学大学院社会人入試】

10/14(土)・15(日)

【大谷大学大学院秋季試験】

10/15(日) 【大谷大学第3学年社会人編入学試験】

【大谷大学第3学年推薦編入〔前期日程〕】

10/20(金) 【大谷学会研究発表会】

10/25(水) 【宗祖御命日勤行・講話】

「オウム事件の社会学的一考察」

寺林 脩 本学教授

【教職員を対象とする人権問題学習会】

人権教育推進委員会

○第3部会 (障がい者差別問題部会)

○第4部会 (性差別問題部会)

11/ 4(土)・5(日) 【指定校制推薦入試】

11/10(金)～12(日) 【第106回 紫明祭】

10(金)・前夜祭

11(土)・川嶋あい Live in 紫明祭

12(日)・東儀秀樹講演会・後夜祭

11/11(土) 【第11回同窓会ホームカミングデー】

11/18(土)・19(日) 【公募制推薦入試】

11/27(月) 【大学報恩講】

11/30(木)・12/ 1(金)

【大谷大学真宗総合研究所・フランス国立高等研究院合同シンポジウム】

「宗教と近代合理的精神—日仏文化の比較をとおして—」

12/ 5(火)～23(土)

大谷大学博物館2006年度冬季企画展 京都を学ぶ

【古建築の意匠】

12/ 6(水) 【“人権問題を共に考えよう” 全学学習会】

テーマ：今日の女性の雇用と就業をめくって

「働く女性の権利を確立するために」

渡辺和恵 (講師・弁護士)

12/ 9(土) 【教育後援会福井地区父母兄弟懇談会】

12/16(土) 【大谷大学第3学年推薦編入〔後期日程〕】

2007年

1/14(日)～21(日) 【同窓会海外研修旅行】

「ベトナム・宗教と世界遺産を巡る研修の旅」

1/20(土)・21(日) 【大学入試センター試験】

2/ 3(土)～6(火) 【一般入試〔第1期〕】

2/27(火)・28(水) 【大谷大学大学院春季試験】

2/28(水) 【大谷大学第3学年一般編入】

3/ 7(水) 【一般入試〔第2期〕】

3/16(金) 【卒業証書並びに学位記授与式】

【卒業・修了並びに同窓会新入会員歓迎祝賀会】

母校だより

「開学記念式典並びに初代学長清沢満之謝徳法要」

昨年十月十三日(金)、「開学記念式典並びに初代学長清沢満之謝徳法要」が挙行されました。本学が十月十三日を開学の日とするのは、近代的大学として出発した一九〇一(明治三十四)年の開校式が挙行された日によります。

式典は讃歌、法要に続いて、永年勤続者の表彰と記念講演が行われました。本年勤続三十年を迎えられた大内文雄教授をはじめ九名の方に表彰状と記念品が贈られました。

また、本年度の記念講演は本学が元本学教授鈴木大拙先生の没後四十年にあたることから、博物館の特別展「鈴木大拙没後四十年記念展」大



上田閑照氏

拙その人と学問」との共同開催として、京都大学名誉教授上田閑照氏より「『間』の妙—鈴木大拙と曾我量深—」と題して講演をいただきました。

東北師範大学創立六〇周年記念式典に出席

昨年九月十日(日)、本学学術交流協定校のひとつである東北師範大学(中国・長春)の創立六〇周年記念式典に木村宣彰学長、一楽真学生部長、山内美智図書館・博物館課課長が出席しました。

東北師範大学は、一九四六年に創立された教員養成大学です。現在では中国東北部随一の総合大学として、教育学をはじめ、政治・法学、経済、商学、文学、歴史文化、外国語学など十八の学部を有し、人民大街の本部キャンパスと郊外の浄月キャンパスで約一万人の学生が学んでいます。本学と東北師範大学との交流は一九九四年から始まり、一九九五年には学術交流協定を締結しました。以後、留学生の送り出し・受け入れや短期語学研修団の派遣、学術情報の交換や共同学位授与プログラムの構築など学術交流提携校としての実績



本学から記念品を贈呈

を重ねてきました。また、近年双方の教員による共同研究が文部科学省の科学研究費受託研究に採用されるなど、着実にその学術的交流を深めています。十年以上にわたる交流の間には、教員や事務担当者の相互訪問による直接的な対話・協議も実施されてきました。とりわけ二〇〇一年の本学近代化一〇〇周年記念式典には東北師範大学からもご出席いただき、史寧中学長に学術交流協定校を代表して祝辞をいただいたことは記憶に新しいところです。

今回は、一九九六年の創立五〇周年行事に次ぐ大きな式典への出席でしたが、長年の幅広い交流が今回の東北師範大学創立六〇周年記念式典への本学招聘に繋がったものと思われま

東北師範大学・史寧中学長と本学

木村学長との深い絆は、今後の両校の交流の更なる進展を期待させるものでした。

「大谷学会研究発表会」開催

昨年十月二十日(金)十二時五十分より、響流館メディアホールを会場として、大谷学会研究発表会が開催されました。発表三十分、質疑応答十分、という限られた時間内の研究発表でしたが、前もって用意された資料に基づきながら、四名の本学教員が日頃の研究の一端を発表されました。また、学外からの参加者も多く、活発な質疑応答がなされました。今回の発表内容は、例年通り『大谷学報』に掲載される予定です。なお、題目・発表者は次のとおりでした。

仏典を現代語訳するということ

加治 洋一 助教授

黄泉の土地と冥途への旅



研究発表会

—古代中国人の世界観

浅見直一郎 助教授

「雨の中の猫」の中の三毛猫

浅若 裕彦 助教授

カントの根本悪説—その一考察—

村山 保史 助教授

「全国父母兄弟懇談会」開催

大谷大学教育後援会では、在学生の父母兄弟を対象に、全国各地の地区を会場に「父母兄弟懇談会」を開催しています。今年度はすでに盛岡、東京、福知山、長野、新潟、福井の六会場で開催いたしました。

それらの地区懇談会に加えて、去る九月三十日(土)、全在学生の父母兄弟を対象に「全国父母兄弟懇談会」を、本学を会場に開催し、約二八〇名のご父母兄弟をお迎えしました。

第一部全体会の開会挨拶では、頼尊聖教育後援会会長から教育後援会の大学への関わりや、その役割の重要性について、また木村宣彰学長からは、大谷大学存立の意義と教育に対する基本姿勢について述べられました。引き続き、教育・研究、学生生活等について大学の現況報告がなされ、本学に対するご理解を一層深めていただきました。全体会終了後、個別相談会ならびに響流館を中心とした施設見学・博物館の観覧等があ

りました。個別相談会では、学科・成績・進級・進路・就職・海外留学、学生生活、よろず相談の各コーナーが設けられ、父母兄弟から熱心な相談が多く寄せられました。



個別相談風景

真宗学科第四年後藤靖英さん、第二十二回暁烏敏賞第一部門に入選

本学文学部真宗学科第四年後藤靖英さんが、石川県白山市が主催する第二十二回暁烏敏賞第一部門(哲学・思想に関する論文)に「更生の仏道」という論文で入選され、去る十一月十五日(水)、白山市民交流センターにおいて贈呈式が行われました。

暁烏敏は、古今東西の芸術、哲学に関する万巻の書に学び、二十世紀上半期の精神文化界に大きな影響を与えました。本学の前身である真宗大学に学び、本学三代学長の佐々木月樵、多田鼎とともに『精神界』を

発刊するなど、本学とも非常に関係の深い方です。

白山市では暁烏敏の優れた功績を讃え末永く顕彰するとともに、伝統文化の継承発展と二十一世紀を担う青少年の健全育成を図り、有為な人材の輩出を願って「暁烏敏賞」を設け、今回が二十二回目となっております。

後藤さんの論文については、選考結果の選評において「親鸞の信仰的自覚と暁烏敏のそれが同質のものであるとの前提に立って、この論証は成り立つわけですが、発想・構成力および思想の理解とそれを平易に表現する力などにおいて高いレベルにあり、哲学を学ぶ人ばかりではなく、ぜひ、一般の方にも読んでもらいたい論文です」と評されています。

後藤さんは今回の入選について



後藤靖英さん

「私は、暁烏先生の著作によって、大谷大学に入ることを決心し、また、人生の意味を見出すことについての示唆を受けてきたと感じています。今回の受賞は、自分にとって感銘深く、大変名誉なことだと思っています」と話してくれました。今後ますますのご活躍が期待されます。

大学報恩講の厳修

昨年十一月二十七日(月)、宗祖親鸞聖人の絵像と歴代講師の肖像画が掲げられた講堂において、学内外から多数参集のもと、大学報恩講並びに歴代講師謝徳法要が挙行されました。今年度は式典に先立ち、東本願寺より『教行信証(坂東本)』影印本の贈呈式が行われ、真宗大谷派の里雄康意参務より学長に影印本が贈呈されました。その後、里雄参務より、ご挨拶をいただき、影印本刊行の主旨をご紹介いただきました。

式典は、学長の調声により『正信偈』を全員で唱和して報恩講を厳修しました。引き続き歴代講師謝徳法要に移り、『阿弥陀経』の読経のほか、来賓、教職員、学生がそれぞれ焼香を行いました。

法要終了後は、幡谷明名誉教授により「大悲心に生きる―無住処涅槃と還相回向―」の講題で記念講演が行われました。



幡谷明名誉教授

その後、学内食堂にて小豆粥のお齋を全員でいただきました。

「大谷大学 近隣昔の写真展」を開催

去る十二月五日(火)～二十三日(土)の期間、響流館ギャラリーにて、「大谷大学 近隣昔の写真展」を開催しました。

この写真展は京都市、京都新聞社から後援をいただき、近隣地域への大学開放事業の一環として主催したものです。市民の皆様よりご提供いただいた昔の写真を中心に、「市電が走っていた街」や「学校のある街」など六ブロックから構成され、約一五〇点の展示を行いました。会場では学生時代を懐かしむ卒業生や、近隣の方々が気さくに語り合い、交流を深めておられました。

また、写真展会期中の十二月九日(土)には、響流館メディアホール



写真展

を会場に、京都商工会議所北区地域経済懇話会が主催する第二回文化講演会が開催され、本学名誉教授の日下部有信先生が、写真展と関連づけて「賀茂川と深泥池の自然」というテーマで講演されました。講演会にはあいにくの空模様にも関わらず七十名の方が参加され、講演後の質疑応答では、時間が足りなくなるほど熱心な質問や意見が交わされました。



日下部有信名誉教授

特別展 鈴木大拙没後四十年記念展

「大拙 その人と学問」を開催

博物館では、昨年十月十日（火）から十一月二十八日（火）まで特別展 鈴木大拙没後四十年記念展「大拙 その人と学問」を開催しました。この展覧会は大拙に縁の深い鎌倉・金沢・京都で巡回展として開催され、本学がその最終会場となりました。本学での開催は、一九二一年に大拙が教授として赴任されて以後四十年間にわたって教鞭をとられたことに機縁しています。大拙が晩年に設立した鎌倉の松ヶ岡文庫に今も残される書斎を復元し、手紙や英訳『教行信証』の原稿などを通して、大拙の人となりと学問を紹介しました。博物館入口では、一九六二年の本学における講演「親鸞の思想」を編集して放映し好評を博しました。本特別展には約三、七〇〇名の方にご来館いただきました。

「鈴木大拙没後四十年記念講演」を開催

昨年十一月三日（祝）、響流館メディアホールにおいて「鈴木大拙没後四十年記念講演」として、Norman Waddell本学名誉教授による「菩薩の威儀（おんない）」、Michael Pye本学客員教授による

「鈴木大拙の仏教観と東西思想の出会い」を開催しました。当日は祝日の夕刻にも関わらず約二五〇名の来場者が熱心に聴講されました。事前に新聞等で取り上げられたこともあり、当日メディアホールに入りきれなかった方々はマルチメディア演習室やギャラリーにて中継映像をご覧いただきました。

また当日は、博物館特別展・鈴木大拙没後四十年記念展「大拙 その人と学問」も十九時まで延長開館しており、各講演前には博物館展示や図書館エントランスの特別コーナーを多数の方にご観覧いただきました。

なお、当日の講演の様子は、去る十月十三日（金）開学記念式典における、上田閑照京都大学名誉教授の特別講演「『問』の妙—鈴木大拙と曾我量深—」と同様、本学ホームページよりストーリーミングコンテンツ配信を行う予定です。



Michael Pye客員教授



Norman Waddell名誉教授

真宗総合研究所開設二十五周年記念シンポジウム

「南都仏教の中世的展開」開催

昨年十月六日（金）・七日（土）の両日わたり、日米の研究者十六人を招き、真宗総合研究所の二十五周年を記念して「南都仏教の中世的展開」と題したシンポジウムが開催されました。シンポジウムでは三パネルに分けて十二の研究発表が行われました。各パネルとも参加者は三十人から四十人とやや少なめでしたが、参加者の間では活発な意見交換が行われ、大変有意義な会となりました。

また、シンポジウムの一環として米國プリンストン大学教授のジャクリン・ストーン教授による日本語の公開講演会「死の克服—中世日本の臨終行儀をめぐって」が開催されました。一般の来聴者も含めて約五十人の参加者を得て行われたこの講演で、ストーン教授は具体的に分かりやすい例を挙げながら、中世から近世にかけての臨終行儀の変遷を論じられました。

合同シンポジウム開催

昨年十一月三十日（木）・十二月一日（金）、響流館メディアホールにおいて、大谷大学真宗総合研究所・国際仏教研究班（ヨーロッパ部

門）とフランス国立高等研究院・宗教学部門との合同シンポジウムが、「宗教と近代合理的精神—日仏文化の比較をとおして」というタイトルのもとで開催されました。このシンポジウムは、「総合」の名にふさわしく、現代社会における宗教の諸問題が、さまざまな視点から活発に議論される充実したシンポジウムとなりました。



シンポジウムの風景

ポペロ博士を中心とするフランスからの参加者も、「次はパリで」という言葉を残して満足げに帰路につかれました。

神戸親和女子大学との「小学校教諭一種免許状取得プログラム」協定締結について

去年十一月二十日(月)、本学は神戸親和女子大学(神戸市北区)と「小学校教諭一種免許状取得プログラム」協定を締結しました。

本学では、教職支援センターにおいて、小学校教諭を希望する学生からの相談が増えていること、また、教員を目指している学生が、卒業後、他大学の通信教育制度等を利用して小学校教諭免許を取得するケースが増えてきていることなどから、在中に小学校教諭一種免許状を取得できる提携プログラム導入の検討をおこない、今回の協定締結となりました。

本プログラムの履修許可者は、神戸親和女子大学通信教育部《男女共



木村宣彰本学学長と山根耕平神戸親和女子大学学長

学》発達教育学部児童教育学科の科目等履修生として受講し、テキストによる通信教育およびスクーリング(一部を本学において実施予定)によって免許取得に必要な五十九単位のうち四十五単位を取得していきます。

大谷大学版インターンシップ実施

本年度より本学独自のインターンシップ・プログラムを開講し、十一名の学生が参加しました。このプログラムは、ビジネススキルアップ、リスクマネジメント等の事前講義を受講し、夏期休暇中に企業や事業所、病院などで「働く」ことを実際に経験する実地体験型のプログラムです。実習終了後は、事後講義を行い、昨年九月三十日(土)には、実習生全員が自らの体験をプレゼンテーション形式で発表しました。実習前後では、学生一人ひとりの表情や考え方も変わり、参加者の今後が期待されます。

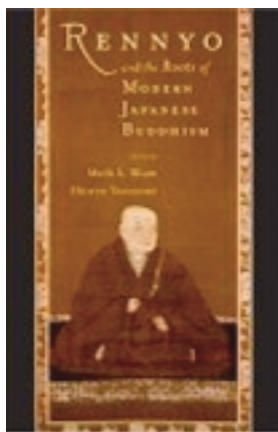


本学OGの指導を受けて実習体験

『蓮如：現代日本仏教のルーツ』刊行 Rennyō and the Roots of Modern Japanese Buddhism

本書は、室町時代に現われ、その後の真宗の発展に大きく貢献した本願寺第八世・蓮如に関する英文の研究書です。ハード・カバーで、総三〇〇頁、十七篇の論文により構成されたアンソロジーです。当初の企画からすいぶん時を経て昨年一月、オックスフォード大学出版部より刊行されました。

本書の出発点は、遡れば、一九九八年六月、本学を会場として開催された「第四十八回・日本印度学仏教学会・学術大会」の「蓮如」特別部会がきっかけとなっています。昨年、ちょうど蓮如上人五〇〇回ご遠忌と重なって、特別部会では、内外の研究者によって蓮如についての多くの研究発表があり、これを縁として『蓮如の世界』と題する分厚い研究書が真宗総合研究所より刊行されました。同研究所では、本書に掲載さ



『蓮如：現代日本仏教のルーツ』

れた、日本と欧米の研究者による論文を数点選んで、英語による蓮如の研究書を出版するというプロジェクトに取り組みしました。編集には、当時研究班のチーフであった安富教授とニューヨーク州立大学準教授のマーク・ブラム氏が担当し、昨年ようやく上梓に至ったものであります。

尋源館車寄改修工事実施

尋源館(赤レンガの旧本館)は一九一三(大正二)年に竣工した大谷大学のシンボルの建物で、二〇〇〇(平成十二)年には国の登録有形文化財にも指定されています。一九八二(昭和五十七)年には内部を改装し、現在も一階は教室に、二階は事務室等に使用しています。尋源館南側の車寄部分の支柱と銅板屋根の傷みがここ数年目立ち、この夏改修工事を行い元のように修復されました。



改修された尋源館車寄

ビッグバレー リニューアル!

一号館一階学生談話室一（ビッグバレー）が改修され、昨年九月二十一日（木）の後期授業開始にあわせてBIG VALLEY CAFE（ビッグバレーカフェ）としてリニューアルしました。

オープンデッキを増設し開放感を持たせるとともに座席数も増加しました。また、グループだけでなく一人でも利用しやすいようカウンター席も設置しました。

営業時間は午前十時～午後五時ですが、営業終了後も午後八時までは自由に使用することができます。（ただし、大学主催行事等で使用する場合は営業時間・使用時間を変更することがあります。）

メニューはパンを中心にサラダ、スープ、コーヒー等のドリンク、スイーツなど多彩です。



学生が集まるオープンカフェ

2007年度大谷大学博物館開館予定

●春季企画展

「大谷大学のあゆみ
—歴代学長の肖像—」
4月3日（火）～4月21日（土）

●夏季企画展

「仏教の歴史とアジアの文化Ⅶ」
5月22日（火）～8月5日（日）

●秋季企画展

「仏教の歴史とアジアの文化Ⅷ」
9月11日（火）～9月29日（土）

●冬季企画展

12月4日（火）～12月22日（土）〈予定〉

●特別展

「法隆寺一切経と聖徳太子信仰」
10月9日（火）～11月28日（月）

企画展、特別展とも原則として月曜日・日曜日・祝日は休館ですが、場合によっては開館することもあります。

日程等詳細につきましては、大学HPをご覧ください。ご覧いただくか、博物館へご確認ください。

TEL：075-411-8483（直通）

パンは、季節によって種類を変え、午前十時、正午、午後二時三十分の一日三回、焼きたてを提供しています。サラダ、スープは日替り（週替り）で数種類のメニューを提供しています。コーヒーは本格派、味にこだわりました。

また、営業時間内でもお弁当を持参された方の食事、休憩、待ち合わせなどにも自由に使用でき、学生諸君に好評を得ています。

人 事

退職

*契約満了による退職

〔校医（婦人科）〕

明坂 治子

二〇〇六年七月三十一日付

*依願退職

〔事務系嘱託〕

大谷 のり子（企画室）

二〇〇六年八月三十一日付

浅野 由佳里（企画室）

二〇〇六年九月三十日付

〔学生相談員〕

佐々木 玲仁

二〇〇六年九月三十日付

採用

〔事務系嘱託〕

弓削 絵理（企画室）

二〇〇六年十月一日付

〔学生相談員〕

西澤 伸太郎

二〇〇六年十月十日付

教育振興資金(募金)のご案内

大谷大学・大谷大学短期大学部では、教育研究環境の一層の充実を図るために「教育振興資金局」を設置し、募金活動を行っています。本学は学校法人として「特定公益増進法人」の認可を受けており、寄付金に対しては税法上の減免税措置が受けられます。

二〇〇六年六月三十日から二〇〇七年一月三十一日までの間に「寄付いただきました方々の芳名は、次のとおりです。ご支援・ご協力ありがとうございました。厚くお礼申し上げます。

◆件数 一三三件

◆寄付金総額 九、二六、四〇〇円

〔教育振興資金寄付者（敬称略）〕

阿野 文雄 天川 信之 天野 義敬
 天山 敬信 荒山 信 飯貝 恵秀
 池田 義勝 石川 研二 石原 敏之
 伊藤 理 稲吉 英雄 井上 証
 井上 修 井上マサ子 今川 雅照
 岩田 常照 上田 毅浩 上山 信乘
 江口 恭子 大久保美和子 大清水 彰
 大橋 武雄 岡 隆信 岡崎あけみ
 小川 啓一 小倉 俊彦 織田 昇
 面 隆 柿田 寿彦 梶原由巳子
 香月 周明 加藤 正憲 金村 正

二〇〇六年度
秋季課外活動結果

【団体成績】

- 卓球部(男子)
 - ・関西学生卓球連盟秋季リーグ戦 IV部Cリーグ 六勝一敗 一位
 - ・IV部入替戦 (Ⅲ部昇格)
- 卓球部(女子)
 - ・関西学生卓球連盟秋季リーグ戦 Ⅲ部Aリーグ 三勝二敗 四位
- 硬式野球部
 - ・京滋大学野球連盟秋季リーグ戦 I部 五勝九敗 四位
- サッカー部
 - ・関西学生サッカー連盟秋季リーグ Ⅲ部Aブロック 六勝二敗 三位
- 剣道部(男子)
 - ・全日本仏教系大学剣道大会 二敗 一回戦敗退
- バスケットボール部(男子)
 - ・関西学生バスケットボール連盟 リীগ戦 Ⅲ部Bリーグ 四勝七敗 七位
- バスケットボール部(女子)
 - ・関西女子学生バスケットボール連盟 リীগ戦 Ⅲ部 八勝二敗 二位
 - ・Ⅲ部入替戦 Ⅲ部残留
- ソフトテニス部(男子)
 - ・関西学生ソフトテニス連盟 秋季リーグ戦 V部Cクラス 一勝二敗 三位
- ソフトテニス部(女子)
 - ・関西学生ソフトテニス連盟 秋季リーグ戦 VI部Aクラス 一勝二敗 三位

- バレーボール部(男子)
 - ・関西学生バレーボール連盟 秋季リーグ戦 V部 五勝二敗 三位
- バレーボール部(女子)
 - ・関西学生バレーボール連盟 秋季リーグ戦 VI部 六勝一敗 優勝
- バドミントン部(男子)
 - ・関西学生バドミントン連盟 関西リーグ VI部 五敗 五位
- バドミントン部(女子)
 - ・関西学生バドミントン連盟 関西リーグ Ⅲ部 四勝一敗 二位
 - ・Ⅲ部入替戦 Ⅲ部残留
- ラクロス部
 - ・関西学生ラクロスリーグ戦 Ⅲ部Bブロック 二勝一敗 二位
- アメリカンフットボール部
 - ・関西学生アメリカンフットボール連盟 秋季リーグ戦 Ⅲ部Cブロック 四敗 五位

【個人成績】

- 硬式野球部
 - 〈京滋大学野球連盟I部秋季リーグ戦〉
 - 【ベストナイン】
 - ・外野手 谷川 慎吾 (文学部人文情報学科 第一学年)
 - 【打撃ベストテン】
 - ・第五位 谷川 慎吾 (文学部人文情報学科 第一学年)
- スキー競技部
 - 〈第二〇回天橋立ローラースキー大会〉
 - 【成年男子】
 - ・全関西二部三位 藤原 崇 (文学部真宗学科 第四学年)
- 【成年女子】

- ・全関西二部二位 内畑 加容子 (文学部史学科 第四学年)
- 跆拳道部
 - 〈拳樹会オープンテコンドー大会〉
 - 【一般男子中級フライ級】
 - ・優勝 禿 孝宏 (文学部真宗学科 第三学年)
 - ・準優勝 平良 真一 (文学部社会学科 第三学年)
- 【一般男子初級ウェルター級】
- ・第三位 吉田 広輝 (文学部社会学科 第一学年)
- 【一般女子初級フェザー級】
- ・第三位 清水 麻友 (文学部哲学科 第一学年)
- バドミントン部
 - 〈京都学生バドミントンクラス別大会〉
 - 【男子シングルスAクラス】
 - ・第四位 湊 一真 (短期大学部文化学科 第二学年)
 - 【男子ダブルス】
 - ・第四位 湊 一真 (短期大学部文化学科 第二学年)
 - ・第四位 發知 道隆 (文学部真宗学科 第二学年)
 - 【女子シングルスAクラス】
 - ・ベスト八 藤田 綾乃 (文学部社会学科 第一学年)
 - 【女子ダブルス】
 - ・第二位 藤田 綾乃 (文学部社会学科 第一学年)
 - ・櫻井 彩香 (文学部社会学科 第一学年)
 - ・以上

鎌倉	道行	辛嶋	珠光	川崎	敬子
河田	良三	川端	章夫	神戸	祥明
北川	寿	北野	武司	清光	生順
清村	治義	楠	秀磨	工藤	義彦
熊谷	満	小島	映潤	後藤	よし子
小林	忍	駒澤	章	小松	俊照
齊藤	浄文	齋藤	巧	佐伯	光義
佐々木	弘英	里雄	康意	佐用裕	美子
澤田	進揚	四宮	敬介	島津	知道
清水	一己	清水	幸栄	下林	茂久
新家	常嘉	菅谷	幸広	杉本	秀二
関川	正幸	高木	淳	高宮	音彦
滝本	一夫	龍山	了祐	田中	富男
谷口	博志	環	文隆	塚寄	智
傳	敏男	綱本	奉弘	豊田	憲
豊田	等流	鳥宮	慶法	中居	詳往
永宝	和彦	中西	無量	難波	明則
西崎	習一	西村	吉二	波佐谷	照充
橋本	一哉	八田	信雄	羽鳥	東一郎
花下	哲夫	羽部	大仁	春名	孝則
正田	晃	樋口	晴雄	日野	岳唯照
平野	紹寿	福井	修	福井	憲雄
福田	吉充	藤井	淳	藤井	正己
藤秀	善昭	藤本	信宏	藤原	祥孝
本多	卓寛	牧田	正彦	松井	邦義
松岡	満雄	松本	良英	松山	隆
三村	祐平	宮田	和之	観山	公尚
望月	正人	守城	照信	森藤	茂久
安居	宏	山浦	芳光	山崎	清吾
山本	絹恵	山本	憲三	山元	孝平
樺葉	智章	曜山	素信	吉田	守
葎仲	秀之	渡邊	百合子	匿名	(三件)
宗教法人	聞稱寺				
昭和三十三年入学学友会代表	竹園	関			

2007年度前期 大谷大学生涯学習講座のご案内

大谷大学では様々な教養をお求めの方に、本学の知的資産をベースとした生涯学習講座を開講しています。本学ならではの宗教・信仰を求めていく講座、21世紀をいかに生きるかをテーマとする最先端講座と切り口は多様で、そこには常にひとのこころが流れています。大谷大学の生涯学習講座にご期待ください。

開放セミナーのご案内 (※1「維摩経をよむ」は検討中)

2	テーマ	宗教と哲学 ー日本を代表する宗教哲学者の思想を知るー
	講師	長谷 正當 (大谷大学教授)
	開講日	6月13・20・27日、7月4日 (いずれも水曜日)
	時間	17:50～19:20
	定員	100名
3	テーマ	柳田國男の遺産 ー教育との関わりでー
	講師	関口 敏美 (大谷大学准教授)
	開講日	5月25日、6月1・8・15・22日 (いずれも金曜日)
	時間	17:50～19:20
	定員	100名
会場		メディアホール
受講料		5,000円 (税込)

紫明講座のご案内

1	テーマ	浄土真宗 ーなぜ浄土なのだろうかー
	講師	中川 皓三郎 (大谷大学教授)
	開講日	7月12・19・26日 (いずれも木曜日)
	時間	17:50～19:20
	定員	100名
2	テーマ	人はばけもの 世にない物はなし ー「西鶴諸国はなし」を歩く
	講師	沙加戸 弘 (大谷大学教授)
	開講日	6月21・28日、7月5日 (いずれも木曜日)
	時間	17:50～19:20
	定員	100名
会場		メディアホール
受講料		3,000円 (税込)

湖西セミナーのご案内

1	テーマ	「近江大津宮と近江京一その所在と構造」
	講師	櫻井 信也 (大谷大学講師)
	開講日	5月19日、6月2・16・30日、7月7・14日 (いずれも土曜日)
	時間	14:30～16:00 フィールドワーク13:00～16:00
	定員	30名
	会場	湖西キャンパスセミナーハウス
受講料		①講座のみ参加 5,000円 ②講座+フィールドワーク 6,000円

博物館セミナーのご案内

1	テーマ	はじめて学ぶ古文書読み解き講座
	講師	平野 寿則 (大谷大学講師)
	開講日	5月12・26日、6月9・23日、7月7・21日 (いずれも土曜日)
	時間	1講時:10:00～11:00 2講時:11:10～12:10
	定員	30名
	会場	マルチメディア演習室
受講料		12,000円 (税込)

【申し込み方法】

講座案内を請求される場合にはハガキ、Eメールいずれかにて、①氏名・フリガナ②〒・住所③電話番号を明記してください。また講座を申し込みの場合は、上記①～③に④講座名を明記の上、下記までお申し込みください。

【申し込み/問い合わせ先】

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学教育研究支援課 MU係
TEL:075-411-8161 FAX:075-411-8162 E-mail:opensemi@sec.otani.ac.jp

*講座名は変更になることがあります。各講座の詳細については、教育研究支援課までお問い合わせください。

本学教員の出版物紹介

- ◎『院政期以後の歌学書と歌枕―享受史的視点から―』
赤瀬知子 著 清文堂 刊
(二〇〇六・十) 四一八頁
- ◎『唐 復礼撰 十門弁惑論 注解』
一色順心 編 平楽寺書店 刊
(二〇〇六・六) 二六〇頁
- ◎『Rennyo and the Roots of Modern Japanese Buddhism』
安富信哉・Mark L. Blum 編
寺川俊昭・訓覇暉雄・安富信哉・松村尚子・草野顕之・加来雄之・池田勇諦 分担執筆
Oxford University Press 刊
(二〇〇六・一) 二九八頁
- ◎『仏教社会福祉辞典』
日本仏教社会福祉学会 編
吉元信行・佐賀枝夏文・山下憲昭・宇治谷義雄・柏原信行・近藤祐昭・田代俊孝・智谷公和 分担執筆
法蔵館 刊
(二〇〇六・三) 三六九頁
- ◎『人と生きる力を育てる―幼児期からの集団づくり―』
全国保育問題研究協議会 編
射場美恵子 分担執筆 新読書社 刊
(二〇〇六・九) 二三四頁
- ◎『日本古典への誘い―選Ⅰ―』
佐藤義寛 分担執筆
東京書籍 刊
(二〇〇六・九) 四四七頁
- ◎『アフリカ系アメリカ人ハンディ事典』
松本昇ほか 編 古川哲史 分担執筆
南雲堂フェニックス 刊
(二〇〇六・十) 四〇〇頁
- ◎『0歳から5歳の「集団づくり」の大切さ―ひとりぼっちをつくらない―』
射場美恵子 著 かもがわ出版
- (二〇〇六・十一) 一六〇頁
- ◎『今、いのちがあなたを生きている』
延塚知道 著
真宗大谷派宗務所出版部
(二〇〇六・十一) 七七頁
- ◎『こころの取扱説明書―こころの体力測定編―』
佐賀枝夏文 共編著 三暁閣文庫
(二〇〇六・十一) 六頁
- ◎『語りえぬ真実…真実委員会の挑戦』
プリシラ・B・ヘイナー 著
阿部利洋 訳 平凡社
(二〇〇六・十) 四四八頁
- ◎『関山和夫博士喜寿記念論集 仏教文学 芸能』
関山和夫博士喜寿記念論集刊行会 編
石橋義秀・岩田宗一 分担執筆
思文閣
(二〇〇六・十一) 一〇二頁
- ◎『異界を創造する―英米文学におけるジャンルの変奏』
玉井暉・新野緑 共編
宮川清司 分担執筆 英宝社
(二〇〇六・十一) 三八八頁
- ◎『Nyāya-Vaiśiṣṭya-Felicitation Volume of Prof. V.N.Jha』
Manabendu Banerjee 編集
山本和彦・長崎法潤 分担執筆
Sanskrit Pustak Bhandar
(二〇〇六・十一) 八〇二頁
- ◎『現代倫理学事典』
大庭 健 編集
池上哲司・荒牧典俊・鈴木幹雄・須藤訓任 分担執筆
弘文堂
(二〇〇六・十二) 一一〇〇頁
- ◎『心理学実習 基礎編』
高石浩一・谷口高士 共編著
谷口奈青理 分担執筆 培風館
(二〇〇六・十二) 一五四頁



昭和47年度育英学寮在籍者同窓会 (2006.6.30)
6月30日、京都にて2回目の同窓会を行いました。
残念ながら寮監(稲垣淳造)先生の出席は叶いませんでしたが、皆それぞれご活躍とのことでした。
次回は山形での開催を予定しています。

渡辺貞磨ゼミ1985年卒業生
同期会 (2006.8.14)
今まで知らなかった意外な一面を見せてくれた人もいて、大いに盛り上がりました。
また次回も楽しみにしています。

同期会、ゼミ・クラス会、 OB・OG会

恩師を囲んで



沙加戸弘先生還暦記念
「国文学第3ゼミ同窓会」
(2006.8.19)
尋源館講堂にて記念のご講演を拝聴した後、三条の旅館に場所を移しての懇親会。有意義な記念一夜研修会となりました。
恩師に感謝。



児童教化研究会同窓会 (2006.8.19)
卒業以来初めての同窓会。会った瞬間、30年前にタイムスリップ。外見は変わっても、気持ちはみんなあの頃のままでした。



新潟県に在住する安富ゼミ生の同窓会 (2006.8.26)
大学を卒業して、なかなか京都での同窓会に集うことができない者達が、久しぶりに郷土で集い昔話に花を咲かせました。



寺川先生との集い (1993年1994年修士課程
寺川ゼミ卒業生同窓会) (2006.8.26)
卒業して10数年、とても懐かしく心穏むひと時でした。
皆さんとまたお会いできれば幸いです。

映画研究部OB会 (2006.8.26)
前回から6年ぶりのOB会となりました。今回も多くの方に参加していただき、懐かしさの中に笑顔があふれました。



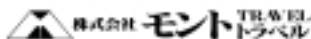
大谷大学剣道部講武会戦後再開40周年大会 (2006.8.26)
今年のOB会は剣道部の活動が戦後に再開されてちょうど40周年に当たり、「戦後再開40周年大会」として開催しました。剣道が禁止されていた時代の先輩方のご苦労を何うと共に、これからの剣道部の隆盛に向けての支援をしていくことが確認されました。



大谷大学同窓生が設立した
旅行会社で
インド・中国の仏教遺跡から
その他の国々まで
出会いや感動を
お届けします



TEL.06-6531-1344
FAX.06-6531-1346
E-mail : info@monto.co.jp
URL : http://www.monto.co.jp/



貫練学寮第10期生同期会「十練会」(2006.8.27)
「十練会」を8月27日に石川県山代温泉にて開催いたしました。「十練会」も今年で4年ぶり3回目の開催を迎える事となり、全国各地から15名が集まり久しぶりに顔を合わせる中、16年前の寮生活に思いを廻らせ、有意義な一夜を過ごしました。



昭和31年青英寮入寮生同期会 (2006.9.14)
入寮以来50年、久方振りの再会。物故者追悼会の後、旧寮を訪ね、宴では思い出話を語り合い旧交をあたためた。今回は3年後。



2006年度卒業佐々木令信ゼミクラス会 (2006.9.9)
卒業後、半年ぶりの再会となったクラス会。新社会人となり多忙な日々を過ごす中、先生方を囲むひと時、再会を喜び合った。



混声合唱団OB・OG総会 (2006.9.24)
今年は、大谷大学混声合唱団第35回記念演奏会の節目の年にあたり、OB会も定例の総会に加え、現役学生との合同演奏を行うことができました。

文学部・大学院仏教文化
国文学分野同窓会 (2006.10.7)
水田紀久・乾憲雄両先輩をはじめ、多数の卒業生が集まり、龍口恭子氏の講演の後、懇親会で楽しいひと時を過ごすことができました。



第4回大谷大学育英寮 (昭和30年4月入寮)
入寮生の集い (2006.9.27)
この同期会は、母校の近代化百周年を機に創設し、4回目を木屋町の「あと村」の床で行った。古稀を迎え、色んなことで参加のない諸兄。一度母校へお越しやす。



大谷大学ジャズ研究会OB・OG会 (2006.10.14)
ライブハウスを貸しきってのライブ&懇親会。世代を超えて結成したバンドに、会場が沸きました。

大谷大学 学内書店

文 栄 堂

TEL 〇七五―四四―一〇七三七
FAX 〇七五―四四―一〇七三七
E-mail: buneidou@pf7.so-net.ne.jp

同窓生の皆様のご注文承ります。



2005年卒業高井ゼミ同期会 (2006.11.3)

約2年ぶりに先生にも会え、社会人らしい悩みなど近況報告をすることができた楽しい会でした。そしてなんと当日はちょうど先生のBIRTH DAY! おめでとうございます★少人数だったのが残念でしたが、今度は全員で過ごしたいです。



茶道部55周年記念茶会並びに茶道部後援会懇親会 (2006.10.15)

茶道部創立55周年記念茶会に、御門首御夫婦をお迎えして渉成園にて10月15日(日)開催致しました。200名に余る参加者を迎えました。



谷雪会総会 (スキー競技部OB・OG会) (2006.11.11)

今年は参加人数が少なかったのですが、現役との交流を図ることができ、有意義な時を過ごすことができたように思います。また来年!



1992年卒業短期仏教科1-Bクラス同期会 (2006.10.30)

久しぶりの再会に大学生活を楽しんでいた頃にもどることができました。本山式務部の坂谷学称さんには、大変お世話になりました。



1998年短期大学部仏教科卒業生同窓会 (2006.11.11)

今回は急な集まりだったのですが、本当に楽しい時間を過ごすことができました。近々、第2回を企画したいと思っています。



2006年卒業吉元ゼミ同期会 (2006.11.18)

卒業してから初めての集まりでしたが、急な用事で欠席する人などがあり、少ない人数での開催になってしまいましたが、楽しい時間を過ごせました。次回はみんな揃って集まりましょう。



織田ゼミ第1期生・第2期生OB会 (2006.12.9)
卒業して4、5年経ち、久しぶりに2学年合同で集まりました。参加者が多く、懐かしい姿や思い出話で2日間があつという間に過ぎてしまいました。



ボランティア研究会OB会 (2006.11.25)
サークル仲間の結婚を機にみんなで集まりました。学生時代に帰ったような楽しいひと時でした。結婚した悠&香澄、おめでとう！



2004年卒業村瀬ゼミ同期会 (2006.12.17)
久々にみんなで集まりました。楽しかったです。また集まりましょう。

昭和42年3月卒業短期大学部
仏教科国文科同窓会 (2006.12.19)
昨年2006年で同窓会を始めて15年目になり、還暦を迎えた同窓会でした。卒業して40年たって感無量です。同窓会は不思議なもので昔年を忘れ20代になってしまいます。いつもはお盆明けにするのですが、今年初めて年末の12月19日にしました。年末で女性が少ないのが残念でした。でも白井先生がお元気で出席くださり、とても嬉しかったです。幹事 (本井・田中・鳥越・鷲野)



親鸞の信仰と思想
小野塚明 / 三、五七〇円
阿弥陀如来の本願を信じて、完全な立脚地を得ることの意義を大衆菩薩道から説く。

大系真宗史料 全五巻 特別巻1
真宗史刊行会編 校訂/真宗大谷派
民衆の真宗受容という新視点を取り入れ、基本史料とともに再編集した真宗史料集の決定版。

特別巻 絵巻と絵詞
解説 小山正文 / 三、六〇〇円
伝記 堀谷菊美・大桑 寿 / 一〇、五〇〇円
解説 青木 肇 / 一〇、五〇〇円

監修委員
大桑 寿
早島有毅
平 雅行
平田厚志
草野謙之

法蔵館
〒600-8155 京都市下京区正面通鳥丸東入
TEL 075-343-5226 FAX 075-371-0456 税込(5%)
<http://www.hozokan.co.jp>



第2期大桑ゼミ同窓会 (2007.1.13)
今回は念願のカニツアーにやってきました。大桑先生を囲み、歴史談議に楽しい時を過ごす事ができました。来年も1月予定です。

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会を開催企画される場合は、同窓会本部へご連絡ください。連絡用リスト(名簿)・宛名シールの提供ならびに通信費等の一部として開催助成金(1万円)を補助させていただきます。また、同窓会ホームページ「無盡燈」へも開催の告知および報告を掲載いたします。

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会等の開催をお世話いただく幹事さんへ

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会開催一覧

開催日	会 合 名
2006. 6.30 (金)	昭和47年度育英学寮在籍者同窓会
2006. 8.14 (月)	渡辺貞磨ゼミ1985年卒業生同期会
2006. 8.19 (土)	沙加戸弘先生還暦記念「国文学第3ゼミ同窓会」
2006. 8.19 (土)	児童教化研究会同窓会
2006. 8.26 (土)	寺川先生との集い 1993年1994年修士課程寺川ゼミ卒業生同窓会
2006. 8.26 (土)	新潟県に在住する安富ゼミ生の同窓会
2006. 8.26 (土)	映画研究部OB会
2006. 8.26 (土)	大谷大学剣道部講武会戦後再開40周年大会
2006. 8.27 (日)	貫練学寮第10期生同期会「十練会」
2006. 9. 9 (土)	2006年卒業佐々木令信ゼミクラス会
2006. 9.14 (木)	昭和31年育英寮入寮生同期会
2006. 9.24 (日)	混声合唱団OB・OG総会
2006. 9.27 (水)	第4回大谷大学育英寮(昭和30年4月入寮)入寮生の集い
2006.10. 7 (土)	文学部・大学院仏教文化 国文学分野同窓会
2006.10.14 (土)	大谷大学ジャズ研究会OB・OG会
2006.10.15 (日)	茶道部55周年記念茶会並びに茶道部後援会懇親会
2006.10.30 (月)	1992年卒業短期仏教科1・Bクラス同期会
2006.11. 3 (金)	2005年卒業高井ゼミ同期会
2006.11.11 (土)	1998年短期大学部仏教科卒業生同窓会
2006.11.11 (土)	谷雪会総会(スキー競技部OB・OG会)
2006.11.18 (土)	2006年卒業吉元ゼミ同期会
2006.11.25 (土)	ボランティア研究会OB会
2006.12. 3 (日)	直心行射会・OB総会・懇親会
2006.12. 9 (土)	織田ゼミ第1期生・第2期生OB会
2006.12.17 (日)	2004年卒業村瀬ゼミ同期会
2006.12.19 (火)	昭和42年3月卒業短期大学部 仏教科国文科同窓会
2007. 1.13 (土)	1997年卒業幼児教育科Aクラス(岡崎紀子先生)同期会
2007. 1.13 (土)	第2期大森ゼミ同窓会
2007. 2.16 (金)	小野蓮明先生退任記念講演会ならびに謝恩会
2007. 2.17 (土)	史学科東洋史学分野藤島ゼミ1986-88年卒業生合同同期会



1997年卒業幼児教育科Aクラス(岡崎紀子先生)同期会(2007.1.13)
卒業して初めての同期会でした。急な話にも関わらず、17名もの参加があり、岡崎先生を囲んで、ほのぼのとした会でした。



史学科東洋史学分野
藤島ゼミ1986-88年
卒業生合同同期会
(2007.2.17)
卒業20年にして念願の同期会を開催しました。藤島先生のお元氣な様子に接して、出席者一同安心(感心?)しました。次回は札幌でお会いしましょう。



小野蓮明先生退任記念講演会ならびに謝恩会(2007.2.16)
全国各地から同窓生が集まり、本年3月に大学を退職される小野蓮明先生の学恩に感謝して、退任記念の謝恩会を開催しました。

RAJEM ライエム
Kyoto Kitayama
Tel.075-721-6800

物部 雄二 (1977年文学部卒)

申し込みは、電話、FAXまたはE・メールで「大谷大学校友センター」までお申し出ください。
TEL 〇七五・四一一・八二二四
FAX 〇七五・四一一・八一五七
E-mail: kouyuu@sec.otani.ac.jp

なお、今回の広告掲載は『無盡燈』一二七号より掲載開始されました。

- ・全一段(タテ六cm×ヨコ一八cm) 一〇〇、〇〇〇円
- ・1/2段(タテ六cm×ヨコ八・九cm) 五〇、〇〇〇円
- ・1/4段(タテ六cm×ヨコ四・四cm) 二五、〇〇〇円

同窓の皆さまが、現在お務めの企業広告や名刺広告の掲載にご協力いただけますようお願い申し上げます。広告掲載料金・申込方法は次のとおりです。

「無盡燈」への
広告掲載募集!



昭和31年青英寮入寮生同期会 (2006.9.14)
入寮以来50年、久方振りの再会。物故者追悼会の後、旧寮を訪ね、宴では思い出話を語り合い旧交をあたためた。今回は3年後。



2006年度卒業佐々木令信ゼミクラス会 (2006.9.9)
卒業後、半年ぶりの再会となったクラス会。新社会人となり多忙な日々を過ごす中、先生方を囲むひと時、再会を喜び合った。



混声合唱団OB・OG総会 (2006.9.24)
今年は、大谷大学混声合唱団第35回記念演奏会の節目の年にあたり、OB会も定例の総会に加え、現役学生との合同演奏を行うことができました。

文学部・大学院仏教文化
国文学分野同窓会 (2006.10.7)
水田紀久・乾憲雄両先輩をはじめ、多数の卒業生が集まり、龍口恭子氏の講演の後、懇親会で楽しいひと時を過ごすことができました。



第4回大谷大学育英寮 (昭和30年4月入寮)
入寮生の集い (2006.9.27)
この同期会は、母校の近代化百周年を機に創設し、4回目を木屋町の「あと村」の床で行った。古稀を迎え、色んなことで参加のない諸兄。一度母校へお越しやす。



大谷大学ジャズ研究会OB・OG会 (2006.10.14)
ライブハウスを貸しきってのライブ&懇親会。世代を超えて結成したバンドに、会場が沸きました。

大谷大学 学内書店

文
栄
堂

TEL 〇七五―四四―一〇七三七
FAX 〇七五―四四―一〇七三七
E-mail : buneidou@pf7.so-net.ne.jp

同窓生の皆様のご注文承ります。



2005年卒業高井ゼミ同期会 (2006.11.3)

約2年ぶりに先生にも会え、社会人らしい悩みなど近況報告をすることができた楽しい会でした。そしてなんと当日はちょうど先生のBIRTH DAY! おめでとうございます★少人数だったのが残念でしたが、今度は全員で過ごしたいです。



茶道部55周年記念茶会並びに茶道部後援会懇親会 (2006.10.15)

茶道部創立55周年記念茶会に、御門首御夫婦をお迎えして渉成園にて10月15日(日)開催致しました。200名に余る参加者を迎えました。



谷雪会総会(スキー競技部OB・OG会) (2006.11.11)

今年は参加人数が少なかったのですが、現役との交流を図ることができ、有意義な時を過ごすことができたように思います。また来年!



1992年卒業短期仏教科1-Bクラス同期会 (2006.10.30)

久しぶりの再会に大学生活を楽しんでいた頃にもどることができました。本山式務部の坂谷学称さんには、大変お世話になりました。



1998年短期大学部仏教科卒業生同窓会 (2006.11.11)

今回は急な集まりだったのですが、本当に楽しい時間を過ごすことができました。近々、第2回を企画したいと思っています。



2006年卒業吉元ゼミ同期会 (2006.11.18)

卒業してから初めての集まりでしたが、急な用事で欠席する人などがあり、少ない人数での開催になってしまいましたが、楽しい時間を過ごせました。次回はみんな揃って集まりましょう。



織田ゼミ第1期生・第2期生OB会 (2006.12.9)
卒業して4、5年経ち、久しぶりに2学年合同で集まりました。参加者が多く、懐かしい姿や思い出話で2日間があつという間に過ぎてしまいました。



ボランティア研究会OB会 (2006.11.25)
サークル仲間の結婚を機にみんなで集まりました。学生時代に帰ったような楽しいひと時でした。結婚した悠&香澄、おめでとう！



2004年卒業村瀬ゼミ同期会 (2006.12.17)
久々にみんなで集まりました。楽しかったです。また集まりましょう。

昭和42年3月卒業短期大学部
仏教科国文科同窓会 (2006.12.19)
昨年2006年で同窓会を始めて15年目になり、還暦を迎えた同窓会でした。卒業して40年たって感無量です。同窓会は不思議なもので昔年を忘れ20代になってしまいます。いつもはお盆明けにするのですが、今年初めて年末の12月19日にしました。年末で女性が少ないのが残念でした。でも臼井先生がお元気で出席くださり、とても嬉しかったです。幹事 (本井・田中・鳥越・鷲野)



親鸞の信仰と思想
小野陣明 / 三、五七〇円
阿弥陀如来の本願を信じて、完全な立脚地を得ることの意義を大衆菩薩道から説く。

大系真宗史料
真宗史刊行会編 協賛/真宗大谷派
民衆の真宗受容という新視点を取り入れ、基本史料とともに再編集した真宗史料集の決定版。

好評再刊
特別巻 絵巻と絵詞
解説 小山正文 / 三、六〇〇円
伝記巻 道世撰書伝
解説 堀谷菊美・大桑 寿 / 一〇、五〇〇円
解説 青木 肇 / 一〇、五〇〇円

編集委員
大桑 寿
早島有毅
平 雅行
平田厚志
草野謙之

法蔵館
〒600-8155 京都市下京区正面通鳥丸東入
TEL 075-343-5226 FAX 075-371-0456 税込(5%)
<http://www.hozokan.co.jp>



第2期大桑ゼミ同窓会 (2007.1.13)
今回は念願のカニツアーにやって来ました。大桑先生を囲み、歴史談議に楽しい時を過ごす事ができました。来年も1月予定です。

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会を開催企画される場合は、同窓会本部へご連絡ください。連絡用リスト(名簿)・宛名シールの提供ならびに通信費等の一部として開催助成金(1万円)を補助させていただきます。また、同窓会ホームページ「無盡燈」へも開催の告知および報告を掲載いたします。

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会等の開催をお世話いただく幹事さんへ

同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会開催一覧

開催日	会 合 名
2006. 6.30 (金)	昭和47年度育英学寮在籍者同窓会
2006. 8.14 (月)	渡辺貞磨ゼミ1985年卒業生同期会
2006. 8.19 (土)	沙加戸弘先生還暦記念「国文学第3ゼミ同窓会」
2006. 8.19 (土)	児童教化研究会同窓会
2006. 8.26 (土)	寺川先生との集い 1993年1994年修士課程寺川ゼミ卒業生同窓会
2006. 8.26 (土)	新潟県に在住する安富ゼミ生の同窓会
2006. 8.26 (土)	映画研究部OB会
2006. 8.26 (土)	大谷大学剣道部講武会戦後再開40周年大会
2006. 8.27 (日)	貫練学寮第10期生同期会「十練会」
2006. 9. 9 (土)	2006年卒業佐々木令信ゼミクラス会
2006. 9.14 (木)	昭和31年育英寮入寮生同期会
2006. 9.24 (日)	混声合唱団OB・OG総会
2006. 9.27 (水)	第4回大谷大学育英寮(昭和30年4月入寮)入寮生の集い
2006.10. 7 (土)	文学部・大学院仏教文化 国文学分野同窓会
2006.10.14 (土)	大谷大学ジャズ研究会OB・OG会
2006.10.15 (日)	茶道部55周年記念茶会並びに茶道部後援会懇親会
2006.10.30 (月)	1992年卒業短期仏教科1・Bクラス同期会
2006.11. 3 (金)	2005年卒業高井ゼミ同期会
2006.11.11 (土)	1998年短期大学部仏教科卒業生同窓会
2006.11.11 (土)	谷雪会総会(スキー競技部OB・OG会)
2006.11.18 (土)	2006年卒業吉元ゼミ同期会
2006.11.25 (土)	ボランティア研究会OB会
2006.12. 3 (日)	直心行射会・OB総会・懇親会
2006.12. 9 (土)	織田ゼミ第1期生・第2期生OB会
2006.12.17 (日)	2004年卒業村瀬ゼミ同期会
2006.12.19 (火)	昭和42年3月卒業短期大学部 仏教科国文科同窓会
2007. 1.13 (土)	1997年卒業幼児教育科Aクラス(岡崎紀子先生)同期会
2007. 1.13 (土)	第2期大森ゼミ同窓会
2007. 2.16 (金)	小野蓮明先生退任記念講演会ならびに謝恩会
2007. 2.17 (土)	史学科東洋史学分野藤島ゼミ1986-88年卒業生合同同期会



1997年卒業幼児教育科Aクラス(岡崎紀子先生)同期会(2007.1.13)
卒業して初めての同期会でした。急な話にも関わらず、17名もの参加があり、岡崎先生を囲んで、ほのぼのとした会でした。



史学科東洋史学分野
藤島ゼミ1986-88年
卒業生合同同期会
(2007.2.17)
卒業20年にして念願の同期会を開催しました。藤島先生のお元氣な様子に接して、出席者一同安心(感心?)しました。次回は札幌でお会いしましょう。



小野蓮明先生退任記念講演会ならびに謝恩会(2007.2.16)
全国各地から同窓生が集まり、本年3月に大学を退職される小野蓮明先生の学恩に感謝して、退任記念の謝恩会を開催しました。

RAJEM ライエム
Kyoto Kitayama
Tel.075-721-6800

物部 雄二 (1977年文学部卒)

申し込みは、電話、FAXまたはE・メールで「大谷大学校友センター」までお申し出ください。
TEL 075・411・8124
FAX 075・411・8157
E-mail: kouyuu@sec.otani.ac.jp

なお、今回の広告掲載は『無盡燈』一二七号より掲載開始されました。

- ・全一段(タテ六cm×ヨコ一八cm) 一〇〇、〇〇〇円
- ・1/2段(タテ六cm×ヨコ八・九cm) 五〇、〇〇〇円
- ・1/4段(タテ六cm×ヨコ四・四cm) 二五、〇〇〇円

「無盡燈」への
広告掲載募集!

機関紙『無盡燈』(「同期会、ゼミ・クラス会、OB・OG会」報告ページ)に広告を掲載することができます。

同窓の皆さまが、現在お務めの企業広告や名刺広告の掲載にご協力いただけますようお願い申し上げます。広告掲載料金・申込方法は次のとおりです。

通信

「民族を超えて…」

西藤 大信

(一九九七年文学部真宗学科卒業)

私は大谷大学では真宗学を専攻しました。卒業、就職を経て二年後、ボストンのバークリー音楽大学に入学。作曲・ジャズを学び、その後ニューヨークを中心に活動し、そこに住んで七年になりますが、最近になって、特に言葉のもつ力と言葉の壁を感じさせられています。

「音楽に国境はない」と言われていますが、音楽でニューヨークのミュージシャンと通じ合うことができません。仏教でいわれるところの、全ての人と通じ合うというところは共通点を感じます。ところで、私は音楽が好きでその道を志しました。学生時代ジャズ研に入って、バンド形式で音楽活動に没頭していた三回生の時、大学主催のインド旅行に参加する機会を得ました。そこは悠久の歴史と大地があり、露店でインド音楽のカセット



テープを数本買ったことを思い出します。どれもいかにもインドの雰囲気、タブラとシタールがゆったりとリズムを刻み、延々と続くのです。人々が長い道のりを牛を引いて歩いていく風景が、目の前に再現されているような不思議な感覚でした。音楽というものは風土から産み出されるものであると…。それまで、一次的に耳で聞くことしか知らなかった私が、インストやワールドミュージックに興味をもつ一つのきっかけとなりました。おそらくインドへ行っていないから、おセットテープはただの音にしか聞こえてなかったかもしれません。その意味で私は、インストのジャズを、ただギターで弾くということだけでなく、自分の内側から発するものに耳を傾けながら作りをし、音にのせていきたいと思っています。

スペインでみた海を…摩天楼ニューヨークの輝きと闇を…日本の和のテイストを…。そして、大谷大学でいただいた仏教の思想を表現してあげたいと思います。民族を超えて、いろんな人とつながりあえる喜びを感じながら…。

〔ギタリスト・作曲家（フレッシユサウンドレコード（スペイン）アーティスト）〕

結婚
おめでとうございます



幸せなご家庭を築かれることを
念じ申し上げます。

()内は最終卒業・修了年(敬称略)
※同窓会本部掌握分

尋源講堂にて結婚式を挙行

昨年九月十六日(土)、本学同窓生の中
西無量(二〇〇二年博士後期課程満期退学)
さんと山下智美(二〇〇四年修士課程修了)
さんの婚儀が仏前にて執り行われました。



- | | |
|--------------|--------------|
| 中西 無量(二〇〇二博) | 山下 智美(二〇〇四博) |
| 野間 勝行 | 繁内 奈奈(二〇一三) |
| 安藤 祐(二〇〇三) | 平田亜津子(二〇〇四) |
| 山添 悠(二〇〇五) | 大八木香澄(二〇〇三) |
| 早川 希(二〇〇二) | 小林 千加 |
| 市村 泰典 | 大島由美恵(一九七五) |
| 渋谷 光樹 | 山本 幸子(一九八七) |
| 要田 憲人(二〇〇五) | 松野 有希(一) |
| 山下 裕輔(二〇一三) | 奥西 由佳(一) |
| 熊崎 高志 | 寺澤 道代(一九八七) |
| アンドレアス・クロツ | 小林由香里(一九八七) |
| 小川 豊雅 | 神原 由佳(一九八七) |
| 里村 信哉 | 田村 知子(二〇〇四) |
| 峰須賀強志 | 島林 里美(一九五七) |
| 中埜 雅夫 | 安藤枝里子(二〇一三) |
| 伊藤 正志(二〇〇四) | 安崎 洋美(二〇〇四) |
| 森 直人 | 西澤亜紀子(一九六五) |

窓

同

「いのちの花を咲かせよう」

鈴木君代

(一九八八年文学部哲学科卒業)

「お坊さんに惚れてお寺に入ったの」という、私が作詞作曲した歌があります。私を示すリアルな歌です。月二回京都でライブを行い、コンサートに呼んでくださるお寺では、人に遇わせてもらいながら、十年以上その歌を歌い続けています。その歌のとおり、お寺で毎日働かせてもらっています。お寺で生まれた人間でない私が、僧侶となり、お骨収めやお経の受付案内などの仕事を通して、「生死出づべき道」、大切な人と別れていくこと、そしてもう一度大切な人と出遇つていくことを学ばせてもらいました。

幼い頃から感受性が強く情緒不安定だった私は、六歳のときに両親の離婚が原因で自律神経失調症になり、小学校の時、あるお寺に預けられました。最初はいや



いや行つたそのお寺で、今までの自分がひっくり返るような言葉を聴くことになりました。「蟻も野草も蝉もあなたと同じいのち」。今まで聴いたことのない「いのちの平等」を説く仏さまの教えの言葉は私に感動を与えてくれ、もしかしたら、私がつつと思いつけてきた「何のために生まれてきたのか」をお坊さんなら教えてくれるかもしれないと思いました。最終的には親鸞聖人の仏教に惹かれてこの世界に入ったのです。そして、自分と同じように悩みを持ついろいろな人に遇わせてもらって初めて、国や性別や考え方の差異を超えて「あなたがいて私がいる」と素直に頷けたのです。

それは、周りと自分を比べ、無理に同じにする必要のない、善いか悪いかで計らない世界をともに生きている事実でした。「あなたがあなたであればいい、あなたがたつたひとりのあなたになればいい」という確かな出遇いが、お坊さんに惚れた私を支え、お寺で働かせてもらいながら、「あなたがあなたしか咲かせることのできない、いのちの花を咲かせてください」とたつた一回しかない時と場で歌い続けさせてもらっています。

〔真宗大谷派宗務所(東本願寺)勤務〕

敬弔

ご生前のご功勞を偲び、
謹んで哀悼の意を表します。
()内は履修卒業・修了年(敬称略)

※同窓会本部掌握分

片岡	知信	文学部(一九五七)	二〇〇四・四・三
加藤	良三	文学部(一九四九)	二〇〇五・二・三三
山本	豊江	文学部(一九七八)	二〇〇五・三・二六
宮崎	和子	短期(一九七五)	二〇〇六・一・二〇
吉水	徳正	文学部(一九四八)	二〇〇六・二・二七
佐藤	聖尊	文学部(一九五〇)	二〇〇六・三・二七
長沼	堅正	大専門(一九四三)	二〇〇六・四・二一
木越	慶祐	文学部(一九七五)	二〇〇六・四・二七
川口	慈恵	文学部(一九五九)	二〇〇六・五・三三
高橋	文雄	文学部(一九六三)	二〇〇六・六・九
本多	順賢	文学部(一九五八)	二〇〇六・六・二〇
伊藤	壽磨	大専門(一九三八)	二〇〇六・六・二七
橋本	亜季	短期(二〇〇三)	二〇〇六・六・二九
古見	恵純	大専門(一九四六)	二〇〇六・七・一
松扉	博	修士(一九五七)	二〇〇六・七・三
渡辺	賢雄	大専門(一九四四)	二〇〇六・七・八
広橋	法胤	文学部(一九四七)	二〇〇六・七・九
石塚	義明	文学部(一九五三)	二〇〇六・七・二〇
松田	暁	大専門(一九四三)	二〇〇六・七・三三
中臣	文雄	文学部(一九七〇)	二〇〇六・七・三三
梯	英淳	文学部(一九五五)	二〇〇六・八・二六
鈴木	忍	文学部(一九六七)	二〇〇六・八・二八
平出	幾男	修士(一九七二)	二〇〇六・八・三三
杉谷	勇勝	文学部(一九五三)	二〇〇六・八・三九
房常	芳仁	文学部(一九八三)	二〇〇六・九・三〇
大澤	秀了	文学部(一九五二)	二〇〇六・一〇・一
小西	祐謙	文学部(一九四八)	二〇〇六・一〇・三三
長田	徹	文学部(一九六八)	二〇〇六・一〇・二二
本庄	禎眞	文学部(一九六一)	二〇〇六・一〇・二二
近藤	慈恩	文学部(一九四六)	二〇〇六・一〇・三三
練子	広照	専門部(一九三八)	二〇〇六・二・二七
大友	憲一	大専門(一九四二)	二〇〇六・二・三三
小河	智生	文学部(一九六〇)	二〇〇六・二・二九
秦野	章子	文学部(一九七七)	二〇〇七・一・二六

「仏教と社会心理学」

私は七十歳の春を迎えました。この五十年間、人間の社会的行動の心理学、すなわち社会心理学を学んできました。昭和三十年に大学に入学した頃は戦後十年たっており、戦時下における人間行動、特に大量虐殺など非人間的行動についての体験記や報告書さらには研究書が次々に出版されました。私はそれにふれて人間の闇の部分を知りその恐ろしさに震えました。ずっと以前から私の育った寺では青年会や子ども会活動を行っていて、集団活動の意義や楽しさを体験的に知っておりましたが、大学生になり様々な恐ろしい集団的行動の実態を知るに及び、集団の明暗両面に強い関心を持つようになりました。このようなわけで、集団に入ることによって人は賢くなるのか愚かになるのかという問題は、私にとって大事な研究テーマの一つとなりました。

『歎異抄』の中の親鸞の言葉「さるべき業縁のもよおせば、いかなるふるまいもすべし」を思い起こします。これに関して、ミルグラムの『服従の心理』第一章をぜひ読んでほしいと思います、多くの学生さんにすすめてきました。

また、社会心理学の研究テーマの一つに「自己開示と信頼感の深まり」がありますが、『歎異抄』の第九章にある親鸞と唯円との対話は、まさに自己開示の相互性の極致であるように思われます。いじめなどに深く関わる「社会的比較過程の理論」については、『俱舍論』に説かれる七慢から大きく学ぶことができるように思われます。私が最近取り組んでいる「集団思考」の問題などは、すでに聖徳太子の論じるところであり、十七条憲法第十条に述べられている「凡夫としての自覚」から大きな示唆を受けています。日本社会心理学会に出てくる若い研究者の人たちに、この長い歴史を持つ奥深い仏教から多くを学ぶようにすすめています。その一方で、真宗仏教の学生さんにも社会心理学研究の中に大いに参考になるものがあることを知ってほしいと願っております。

大谷大学教授・社会心理学

蜂屋良彦

表紙絵
「北嶺」

32.7 × 27.3 cm 二〇〇七年作

京都市内どこからも東北の空の下に見える比叡山は、最澄が日本の天台宗を開いた聖なる山である。源信、法然、親鸞、道元、日蓮といった日本仏教の祖師たちも比叡山で学び比叡山から出ていった人々である。

比叡山は季節や見る場所からもさまざまな表情を見せる。雪や霧、陽光によっても違った顔を見せる。大谷大学から見える比叡、工芸繊維大学の高野川から見える比叡。岩倉からはすぐに近くに迫って見える。

思えば私達も学生時代、朝な夕な日々比叡山を仰ぎ見て過ごしてきた。山内の伽藍域は東塔、西塔、横川に分かれているが、東塔は根本中堂を中心に仏堂が集中している。親鸞聖人が寄宿した大乘院など無動寺の仏堂学舎は、東塔に属してはいるが、東塔伽藍があるところから2km南に下った琵琶湖を見下ろす所にある。聖人は二十年間この山で修行されたが、寄宿された大乘院は慈円が行っていた仏教教学の道場であった。慈円は遮那（密教）部門の阿闍梨であったため、慈円のもとで得度し僧侶の道を歩み始めたことは密教を学ぶことを意味した。しかし密教にはなじみず、円仁の伝えた常行三昧で見仏する阿弥陀への信仰へと変わっていったように思われる。当時、比叡山の天台止観のなかには浄土教が混交していた。聖人は百日間の六角堂参籠を行われ、聖徳太子の化身といわれる救世観音から夢告を受けた。六角堂参籠には当時、都へのメインルートであった雲母坂の道を通られた。このルートの山は風化した花崗岩で雲母が多くとれる。修学院離宮の南側に音羽川が流れ、その上流より雲母坂に入るところは京都の街並みの見晴らしも良く、風光明媚なところである。今は車やケープルで簡単に比叡山に登れるが、聖人や往時の人々をしるんで雲母坂を上がることも大切なように思う。

畠中光亨（一九七〇年文学部卒）

京都造形芸術大学教授

大谷大学非常勤講師

2007年3月20日発行

発行 大谷大学同窓会本部
編集 無盡燈編集委員会

〒603-8143 京都市北区小山上総町 大谷大学校友センター内
電話 (075)411-8124 FAX (075)411-8157
振替 01020-9-20542

同窓会ホームページ <http://www.mujiinto-otani.org/>

E-mail:kouyu@sec.otani.ac.jp

『無盡燈』の題字について 親鸞聖人の真蹟の坂東本『教行信証』から集字したものです。『維摩経』に「無盡燈というのは、譬えば一つの燈をもって百千の燈をともしようなものである。譬えば一つの燈をみながみなるが、その明りはついになくなることがない。…説かれた教えのとおりにみずから一切の善いことがらを増しふやす。これを無盡燈となづける」とあり、先輩がともし続けた伝統に輝く燈の名に恥じないことが願われています。